

愛徳学園中学校

中3

平和学習特別講座

近藤紘子さん講話 感想

2024年9月25日

直接、被爆者の方から被爆経験を聞かせていただき、すごい戦争の怖さ辛さが分かりました。今までは文面でしか被爆経験を知ったことしかなかったけれど、今回初めてなまで聞けてよかったです。

原爆が落とされたことで、多くの人々が命を失い、街も壊れてしまい、戦争は人々に大きな苦しみをもたらすことを知りました。私たちは、こうした悲劇を繰り返さないために、今日のような平和の大切さを学び続ける必要があると思いました。広島を歴史を忘れず、未来に生かしていきたいです。

"被爆を体験された方のお話を生で聞く機会なんてないと思うのですごく良かったなと思います。

戦争の怖さを改めて知り、二度とこのようなことが起きないことを願いたいです。

今日聞いたことを私たちだけで止めるのではなくて、私たちよりも下の子たちにもこのことを伝えていく必要があると思いました。"

直接、被爆者の方のお話しを聞けると言うのは、もしかしたら私達の代で最後かもしれないと思ったので、これ以上ない貴重な時間だと思ってお話を聞いていました。生々しい話から、感動する話まで、とても濃い人生を送られたんだと感じました。自分の人生で辛かったことを話すのは極力したくないことですが、その話を自分達より下の代に話そうとして前向きに活動を続けてこられた近藤さんのことを、今日1日でとても尊敬できる方だと思いました。話の内容が今の私達には非現実的すぎますが、脳内にスッと入ってくる話し方をされていたので、感情移入してしまいそうになりました。

"たったひとつの爆弾がそんなに被害をもたらしてとても怖いなと思いました。

写真や説明だけじゃ伝わらないリアルさ迫力がよく伝わりました。"

聞くまでは、ここまでわたし自身の原爆
に対しての気持ちが変わるとは思いません
でした。実際に経験された近藤さんの思
いを直接受けて、今までたくさんの思いや
考えを持って、生きてこられていたのが、
目でわかりました。近藤さんのような経
験されてこのようにこれから社会に出てい
く私たちに思いを語ってくださる方はもう
かなり少ない中、目の前でお話が聞くこ
とができて、本当に良かったです。

原爆によって被害を受けた事は変えられないけれど、私は二度とこのような悲劇を繰り返さないように学ぶ事が大事だと思います。

平和の大切さには日々のニュースや新聞などで感じることはできませんが実際に戦後どのようなことが起こったのかや人間の状態などを聞くことができ、さらに平和の大切さを感じることができました。

"原爆が落とされてたくさんの方が亡くなったというのは知っていたけれど、原爆から10年後の生活の話や毎年させられていた検査の話などは初めて知りました。原爆が落とされてしばらく経っても苦しんでいた人がいたんだなと思いました。

近藤さんが、原爆を落とした飛行機に乗っていた人たちを許せなかったのに、憎むべきは戦争だったことに気づいたとお話しされていて、確かにそうだなと思ったし、それに気づくことができたことがすごいなと思いました。

さらに近藤さんが原爆被害に遭うという経験をしてもし人生は面白くてね、とお話しされているのを聞いて、前向きで良い方だと思ったし、私もそういう風に考えて生きていきたいなと思いました。"

"今日、近藤さんのお話を聞いて思ったことは戦争はやっぱり誰もいい思いをしないという事です。近藤さんのお話にもありましたが、近藤さん自身もすごく苦しみ、悲しんで生活を送っていたと聞いたので、すごく胸が苦しくなりました。また、爆弾1つでたくさんの犠牲者を生み、亡くならなくても後遺症で苦しんだ方が沢山いることに驚きました。また、近藤さんの被爆した時のドレスを見ると、誰かが何かの記録として残したいという思いがあるんだな、と思いました。今回近藤さんのお話を聞いて、いつ何が起こるかわからない時代を生きている私にできる事さお互いの意見を尊重し合い、みんなの幸せとは何かを考え、それを実行していく事が大切だと思いました。

HIROSHIMAの本でたくさんの人に読まれている事はとても大切な事だと改めて感じました。"

"原爆を体験していない私たちにとって、実際の原爆の怖さとかわからないけれど、近藤さんのお話を聞いて何も知らない時よりも知識を沢山得られたと思います。被爆者の方の中でもすごくいろんな経験をされている方で、副操縦士の方にお会いしたり中々ない経験を積まれている方のお話を実際に目の前で聞くことができるとてもいい機会になりました。近藤さんが次に繋げてほしいと言っていたことを、次の世代の人に繋げていきたいとおもいました。"

今回近藤さんのお話をお聞きして戦争はそんななまぬるいものではないんだと改めて感じました。1つの爆弾によって多くの人を命を奪われることとなってしまったけど、原爆を落とされた人もこの原爆に長い間一人で抱えて苦しんでいたんだなと思いました。戦争が終わって10年経っていても本当の意味では終わってなくて、これまでのように生活できなくなっていたり、家族や親戚、友達などの大切な人を亡くして自分一人だけになってしまったり、直接見えない心も大きな被害を受けたんだと感じました。

"戦争について今までに聞いたことがなかったの
で今日聞くことができてよかったです。
原爆が投下された後に爆風とかで家が崩れて家か
ら出れなくなってしまうあと、助けを求めて声
をあげたけど誰も助けてくれなくて、自力で出た
あと、周りは火事になって、近藤さんの家は火が
つき始めていた時だった時間聞いてギリギリに脱出
できたんだと思いました。
今は戦争のない国だけでもし私が戦時中に生まれ
ていたらどんな生活になるんだろうと思ってもし
身近な人が亡くなったら悲しくなると思うので戦
争のない平和な国が一番だなと思いました"

"近藤さんが副操縦士の人に向けていた憎しみの気持ちは違ふと気づいた、人間の心の汚れている部分こそ憎しむべきなのだ、という話が一番心に残りました。

私たちは誰しも普段から相手を恨んだりしてしまいがちで相手の気持ちをあまり考えずに決めつけてしまうこともあります。でもまずは相手の心を考えたり、相手の話を理解しようとするのが大切で嫌なことを考えずに生きていきたいなと思いました。そうすれば世界はより豊かになるのかなってみんなの笑顔が増えるかなと思いました。"

今日、原爆の貴重な話を聞いて私はこの原爆が落とされたせいでたくさんの命が失われて、たくさんの人が苦しんでいて、当然爆弾を落とした人のことが憎いはずなのに近藤さんはその人を憎むのではなく、その気持ち，心に憎まなければならないとおっしゃっていてそう思える心がとても素敵だと感じました。私がもし、近藤さんの立場なら一生爆弾を落とした人を憎んでいたと思うし、そんなに前向きに生きられないと思います。だからより心が綺麗な方なんだと感じました。このことは前のことに思わず、これから生きていく未来の人にずっと受け継がれていけるようしたいです。貴重な話、ありがとうございました。

被爆者の方々はいつかはいなくなってしまうけれど原爆のことを忘れずに私たち若い世代が語り継いで行かなければならないと思いました。貴重なお話を聞くことができてよかったです。

"原爆の話を聞いて、とても被害の大きい大変なものだったのだと改めて実感しました。

また、私達が今どれだけ幸せで平和に暮らしているのかを実感させられました。"

"貴重なお話をお聞きして、戦争や爆弾は本当に恐ろしいものだということを改めて感じました。近藤さんのお父さんが瓦礫の中から人を引っ張り出そうとしても皮だけが取れて中身はそのままとか、まぶたや唇が他の皮膚とひっついていて人がいたこと、腕がくっついていたことなどは本当に衝撃とショックを受けました。また、「恨むべきなのは原爆を落とした人とか特定の人ではなく、戦争、人間の悪い心で、地球に住んでいる人は全て同じ人」

「人生は面白いよ、今行っている道がダメになっても他に道はあるから諦めないことが大事」「みんながこれから平和をつないで、平和な世界が続くことを願っています」という言葉が印象に残りました。でも一番は近藤さんがお話ししている時の表情や口調などです。最後に「頼んだよ」と力強く全員にハグしてくださった時、私は少しでも平和のためにできることをしていきたいと思いました。"

被爆者の方から直接お話を聞くことは今までなかったもので、当時の状況を詳しく聞けていい機会だなと思いました。近藤さんがどんな方なのか、全く知らずに今日の講話を受けて、当時の状況やその後のことなど、まさかそんなにすごい経験をされた方だとは思ってもなかったもので、お話を聞けて本当に有り難かったです。アメリカへ行った話や有名な広島の本に関わっていたこと、近藤さんにしか話せないお話ばかりで、こんなにも貴重な話は絶対に忘れられないなと思いました。

"原爆が投下された後、被爆されて皮膚がひっついてしまったお姉さんたちに5歳だった近藤さんが幼かったけれど聞いてはいけないことだと思った。という話を聞いてまだそんなに幼い子供であっても、被爆した記憶がなくても周りの人たちが抱える思いが伝わっていることに小さい子でも汲み取ることができるのだなと驚きました。

原爆を投下した飛行機に乗っていた人のことを恨んでいたけれど悪いのは原爆を落とした人ではなく人の心の中にある悪い部分だと聞いた時に、戦争にあったことがない私の中にも生活の中で自分の黒い部分を感じることはあるので、誰にでもある心の闇を無くすことはできないとしても大切なのは自分の心の闇をどうコントロールするかなのかなと思いました。

改めて戦争は人々からたくさんの方々の幸せを奪い苦しむもので決して行ってはいけないことだなと思いました。"